

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 17	公益目的事業 19
主査名	金 利昭 茨城大学工学部教授	
研究テーマ	自転車の新しい利活用と諸問題	
<p>自転車活用推進法が 2017 年 5 月に施行されたことにより、自転車の利活用は、国の施策として総合的・計画的に推進されることになった。現在国が検討を進めている自転車活用推進計画の中でも話題となっていることではあるが、最近の自転車の利活用に関して注目すべき点は二つある。</p> <p>第一は、自転車保有利用形態の変化である。これまで一人が一台を保有して日常の通勤・通学・買い物などに利用していた形態に加えて、一回一回の自分の交通行動毎にシェアする自転車を利用するシェアサイクルが急速に拡大している点である。このようなシェアサイクルは東京都心部や全国主要都市では利用エリアが急拡大しているし、中国資本のモバイクが北海道で事業展開することは話題になったことである。手軽に便利に利用できるシェアサイクルであるが、懸念されることは駐輪問題である。コンビニなどのちょっとした空きスペースを利用したポートが各所に配置されてる一方で路上駐輪なども目立ってきている。</p> <p>自転車の利活用に関して注目すべき第二の点は、観光レジャーサイクルの進展である。これまで公共交通に頼ってきた都市型観光も自転車を活用した観光案内が増加しているし、日本の自然や田舎を売り物にした自転車ツーリズムは、特に外国人にはブームになってきている。観光・レジャーサイクルは、日常生活の交通行動とは異なり、目的地まで早く行くのではなく、その途中を楽しみながら行くことが特徴となる。すなわち、ゆっくり周りを見回しながら、途中途中で止まり、写真を撮る、時には並走するなど、目的地へ早く行くことを目的とした交通行動とは異なった交通行動・挙動をとる。このため通勤・通学・買い物目的など日常の交通行動・挙動を前提としたこれまでの自転車ネットワーク計画・道路設計では対応できないことが多々ある。</p> <p>そこで本研究では、特にシェアサイクルと観光・レジャーサイクルに焦点をあて、これらの利活用に伴う交通工学的諸問題を把握することを目的とする。</p> <p>(1) 全国主要都市で展開されているシェアサイクルの実態調査による問題点把握 調査候補地として東京区部と札幌市を予定</p> <p>(2) 観光レジャーサイクルの問題点把握 しまなみ海道などサイクリングコースを実走するサイクリングと京都など都市型観光を実際に体験する。調査候補地としてしまなみ海道（尾道～今治）と京都奈良を予定</p> <p>(3) シェアサイクル及び観光・レジャーサイクルを展開している事業者や専門家へのヒアリング。</p> <p>(4) シェアサイクルと観光・レジャーサイクルの利活用に伴う交通工学的諸問題の整理</p>		